

平成 29 年度茶園関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

(公財) 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成 29 年度茶園関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成 30 年 9 月 4 日(火)に植調会館 3 階会議室において開催された。

この検討会には、試験場関係者 2 名、委託関係者 3 名ほか、

計 18 名の参集を得て、生育調節剤 1 薬剤(3 点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成 29 年度茶園関係除草剤・生育調節剤試験 判定

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	ねらい	判定	判定内容
1. AKD-8147 水溶 1-ナフタレン酢酸ナトリウム :22.0% [アグロカネショウ]	茶	茶芽萌芽抑制効果	継	継) ・効果、葉害の確認

田畑の草種

小錦草・小二色草(コニシキソウ)

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

トウダイグサ科トウダイグサ属の一年草。全国の畦畔、畑地、路傍、鉄道沿線、人家周辺など至る所に普通。茎は根元から分枝し長さ 10～25cm。立ち上がらずに地面を這う。長さ 10mm、幅 5mm ほどの小さな葉は対生し、中央に筆で刷いたような暗紫色の斑があり、よく目立つ。花は汚れたような薄紅色の苞に包まれた小さな杯状花序で、雌性先熟、先に雌蕊 1 本だけの雌花が咲き、続いて雄蕊 1 本だけの雄花が咲く。

葉が目立つ割には葉腋に着く花は、花弁もなく華やかさもなく目立たない。目立たないから蝶も蜂も訪れてくれない。しかし、蝶や蜂が目立たなくても、蟻には甘い蜜の匂いで十分に目立っている。匂いに誘われた蟻は雄花の蜜を集めるときに頭に花粉を付け、その花粉が雌花の蜜を集めるときに雌蕊の先端につく。そうしてコニシキソウは受粉するが、熟してはじけ飛んだ種子はまた、蟻が別の場所へと運んでくれる。

裸地で地面にへばりつくように生育するコニシキソウにとっ

て、周りを背の高い草に覆われることは死活問題である。すなわちメヒシバなどがすぐ側で生育するとコニシキソウの生育が脅かされることになり、どうしても避けたいのである。そこはうまくできていて、このコニシキソウ、根から没食子酸とタンニン酸を分泌し、メヒシバなどの生育を阻害しながら自らの生育環境を確保している。

同属他種に在来のニシキソウがある。「錦草」とも「二色草」ともいわれるが、赤い茎と緑の葉を「錦」に譬えたとか。コニシキソウはニシキソウより小さいというほど小さくはないが、葉に斑紋があることからコニシキソウの方がより「錦草」に近いかも。

地面を這いまわるといふ、見てくれの悪いコニシキソウであるが、陽の光を燦燦と浴び蟻と共存しながら裸地を占有するという生活は「錦」であるのかもしれない。